WASON
No. 1894
No. 369

女學雜誌

明治十八年初刊
每週土曜日發兌

第三百六十九號

要目

○社說
一大事業の觀念　よし治
○女學
塾舍内の和樂　次郎
○講壇
一傳道者の時敎　無名豪仙
○論說
名論斷錦
（片々）ウイラードの自轉車○何如にして大典を祝し奉らん○女性の數學博士○今昔の物價

明治二十七年三月三日發兌

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

第三百六十九號目録

社説

一大事業の觀念

講壇

一傳道者の時敎（無名豪仙）

論説

名論斷錦（第一集）

自然の異性、製造の異性

共同分勞すべし、優劣貴賤なし

敎えずして愚なりと言ふ

智識の進歩に於ける婦人の勢力

生意氣は生物識より生ず

幼にして早く女性を輕んず

女學

塾舍内の和樂（井上次郎）

史傳

島津淡路守内室の述懷（下）

一名、女武勇の辨

家政

良人のなぐさめ（ふみ子）

徒然草

内君に對しての同情

女學生の負債（朧の女）

雜録

今昔物價の相違（秋玉庵）

片々

何如にして大典を賀し奉つらん

海外女報

倫敦の基督敎婦人會◎エリサベス、ピーボデー女史◎女性の數學博士◎ウイラードの自轉車◎一婦人の遺念◎英國婦人禁酒會の器關

時報

仙台女學校◎望月興三郎氏の調査◎高知の裁縫科及補習科趣意書◎大坂の裁縫專修科◎伯州米子の婦人慈善會◎美談（村部かづ子。宮原達彌氏。藤塚熊太郎氏。川本リヱ子藤岡ムメ）◎裁縫機の發明◎婦人の商事裁判官撰擧權に關する法案◎明法二十六年中博愛社貯金部報告

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第三百六十九號

明治二十七年三月三日發兌

社説

『一大事業』の觀念

事業の盛衰は、精神の盛衰より由來す。精神振つて而して事業勃興し、精神衰ろへて而して事業萎縮す。此故に、何事かの改革擴張に對して有爲不屈の精神隆々活潑々ならんには、たとひ目前の景況微々として見覺しからずとするも、其の煥乎として光焰を發つに至らんと期して待つべし。たとへば、一脈の導火、漸次に傳はりて、轟然たる爆發、天地震動の瞬機正に刻々に近づくの狀に似たり。人孰れか警心して之を待たざらんや。然るに、精神の衰ろへたるは、火氣の消えたるが如し。活動の元機すでに絶す。たとひ暫らく事軸を回轉せしめ、轆々の響、依然にぎわしきとするも、其音は死の音なり、久しからずして、漸やく澁滯、漸やく遲緩、漸やく斷絶、遂に全く閉息消滅せんと明らかなり。此を以て、識者は先づ精神の盛衰を察す。而して、精神の發表は元氣氣力の煥發なり元氣々力にして汪熾なりせば、安んじて之を待ち、元氣々力にして萎微なりせば、痛苦して之を歎ず。先きだつて憂ひ、後れて落心する所以のものは、即はち此の察機鑑識のある在るに由る也。

曰く。一大事業と。此の語、何等威力あるの名題なる哉。志士、之を聞けば、心胸の躍るを覺ゆ。烈士、之を聞けば、五躰の震動するを覺ゆ。苟くも、血ある人、誰か奮然として、其用を成さんとを思はざらんや。夫れ、用を知つて動かざるは、生氣なき也、難を見て趨かざるは、氣力なき也、義を見て爲ざるは、勇なき也。生氣なく、氣力なく、勇なきは、死せるに等し、曾て有爲男女に無き所ろとす。苟くも、慷慨の氣あり、身を捧げて公けに殉ずるの念ひあらんものは一大事業なりとして天の徵集招告あらんの日、安くんぞ慨

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

然、身を起して之に應ぜざらんや。而して、此の難に趨むき、義に盡くすの生氣一と度び活動せば、其の戰は既に開かれたる也、其の勝利は既に確かめられたる也、事業の大半既に成就せりと謂つべし。

見よ、方今女子教育の思想は、一大思想にあらずや。其の抱負、極めて宏大なり、其の所望、極めて遠大なり、其の理想極めて崇高なり。而して、之に於ける、故障、妨害、艱難も亦た極めて多からずや。激鬪、敢爲、斷じて思想を貫徹せしむるは、眞とに容易の事にあらず、實に是れ、氣力を要し忍耐を要し、經綸を要し、手腕を要する所ろのもの、烈士身を挺して之に任ずるも尙ほ難きとを覺ゆ。眞に一大事業にあらずや。誰か、萍々汎々として、此の大事業を蔑視するとを爲すぞ。輕薄の人、須からく去るべし。端莊、莊嚴の思念なきもの、與もに聖事を談ずべからず。

歐化の俗風吹き渡り、淺薄なる交際の所望流行となり、俄かに女性を社會公共の用に役立てんとて、即はち女子教育せざる可らずなど喧ましく唱和せしもの起り、人々「我は顔」して揚々之に任じたる狀態、チカシクも亦た可愛らしく、童兒少年の一演劇として、其の自由に任かすの外あらざりしが、彼等は、自から騷ぎ立てゝ世は繁昌なりと言ひ、自から喧囂して、輿論定まれりと言ひ、切りに浮れて樂天家の榮華に夢みるの爲躰、實に一笑の事なりき。識者安くんぞ之に動搖せんや、只だ一と時のお祭りを賑はしとして、若い衆の騷ぎは、數日の遊樂なりと觀じ、二階より之を眺めて、微笑一興とするの外なかりし也。左れば、お祭り止みて、四方沈靜に返へり、時の風流行の後ち、天氣さびしきは、當然の數なり。初めを以て、眞の進歩とせざれば、後を以て、實際の退歩とするともなし。前に勃興したる眞誠の氣力、後に萎微せしや、何如に。もし此の衰弱だにあらずんば、根底の所ろに、何等の盛衰あるとなし。亦何んぞ、前に慶するとを爲し、はた後に弔するとをかせん。

左れば、此等汎々たる浮草の流れは、風の向ふまゝに任せ、もみがらの集散離合は、暫らく問はずして可なり。吾黨が、關心係意して、甚たく顧慮する所のものは、新日本女子教育の盛事業に對する、眞贄なる同士者が元氣氣力の盛衰果して何如んと云へる一事これ也耳。此の根本の精神にして若し衰

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ろへなば、新日本の女子教育は衰ろへたる也。此の根本の精神にして若し盛んならば、新日本の女子教育は、現に隆々たる也。識者が、掛念し、痛心すべき所ろのもの、眞とに此に存す。かの、書生の數の增減し、學校の數の消長するが如きとは、緊要の事件にはあらず。此等の增減消長は、多くは、時の流行に隨ふのみなり、何んぞ根底の大伸縮と左したる影響あらんや。流行に關由するの盛衰は、流行と共に盛衰すべし、これ吾黨が重大視せざる所ろなり。根本の精神に關するの盛衰は、これ眞との盛衰なり、これ吾黨が最とも鏤心する所のもの也。

敢て問ふ、四方同士の諸君。此の一大事業に對する諸公が氣力元氣、依然として健在なりや。新日本の女子教育は、新日本の創業大事務の半ばなり。教育の淵源こゝに存し。富國强兵の根本、こゝに關し。矯風善俗の泉頭、こゝに發す。女子教育は、單に女の學問なりとして觀念するが如き、淺薄細小の事業にはあらず。國家の裏面、國民の內部、眞とに之と合一す。其進退盛衰は、邦家興廢の岐るゝ所ろにあらずや。新伊太利改革の傑士、ガリバルヂー曰く、凡そ國民の品性を高尙ならしむべき最確實の手段は、國民の母たる女子に、進步開明の教育を施こすにありと、夫れ、女子教育は、單に女性にのみ關するの事業にあらず、眞とに富國强邦の事業なり。單に個人的の事業にはあらず、實に國家的の事業なり。故に、新日本の創業、新日本の改革、新日本の建設の爲めの一大事業なり。

問を寄す、四方同念の君子。此の一大事業に對するの元氣氣力、如今果して如何ん。之に任じて精神の勃々たるを覺え、之に耐えて元氣の隆々たるを感じ、之に望みて前途の悠々たるを樂しみ、之に進みて步武の倍加健々たるや、何如ん。曰く、一大事業。曰く、一大改革。曰く、新日本の一大改革的事業。嗚呼、是れ、有爲男女が身を献じて奉公殉任するの價値餘りあるものにあらずや。諸君子、之に感激する所ろ、如今、果して何如ん。

嗚呼生死晝夜事也、死而死矣、而境界危惡、層見錯出、非人世所堪、痛定思痛、痛何如哉。……………文天祥。

講壇

一傳道者の時教

無名粲仙

『傳道者』たる天成の使命を負ひ、時來り機迫らば、驚ろく可き大傳道を爲すなるべしと思はるる傑士ありけり。固く忍び、深く蘊めて、容易すく揚發せざれど、時あつてか慷慨鬱勃、折にふれて漏らす寸言に万斤の力ありとは言ふ。近頃ろ、草ふかき片田舍より出でゝ、花の都にあそび、榮華にとろけたる軟骨者が、路と云はず、殿と云はず、只管らにナヨ〳〵とよろめくの體裁を見、又、信仰社會に確信なく、あつからず、冷たからぬ生ぬるき半疑者のウヂ〳〵と生き出るさまを見て、一片預言的の義骨、心髓より動き、慨然禁ぜずして、一再度、公開說敎を催ふされける。われ之を傍聽し、心、心に通じて一々會得はしたれど、すべて之れ氣をもて行るものなれど、紙筆の上にかきとむべからず。惜しい哉、何人も之を記すとなし。われ、即はち、尤とも徹骨したる節々をわづかに露はして云く、

ペテロとヨハネ、共に殿に上りしに、一人の生れつきなる跛あり。殿に入る人に施濟を求ん爲に、日ごと負れて殿の美くしと名づくる門に置る。彼、ペテロとヨハネの殿に入らんとするを見て施濟を求へり。ペテロ、ヨハネと共に熟々之を視て曰ひけるは、我儕を觀よ、かれ得るとあらんと意ひて彼等を見つめたり。ペテロ曰ひけるは、金銀は我になし、惟だわれに有るものを爾に與ふ、ナザレのイエス、キリストの名によりて起ちてあゆめ(使徒行三章)と。此の『金銀は我になし、惟だ我に有るものを』の一節、力ある、適當なる題目とはなる。

歐化主義の流行と共に、俄か信者の數、著じるしく殖えたり。彼等の言ふ所によれば、基督敎は文明を進めたとか、斯く云ふ說があつたとか、ビスマークはどう信じたとか、グラッドストーンは斯ふ信じたとか云ふことに尤とも力を置たり。成程、左樣であらう。然し乍ら、夫が『我信仰』に何如ほどの關係ありや。彼等の信仰は、彼等の信仰なり、歷史上の結果は、過去の出來事なり。我が信仰は何如なりや、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

我がものは、何如なりや、その一物確固ならずんば、何の益もなし。信仰は、生命なり。信仰は、品格なり。信仰は、我が本躰の他の形なり。神及クリストよりして、我が得たる所のものならねば、吾信仰にあらず。吾が覺得したる所のものならねば、我がものにあらず。我に有るものは何ぞ。此の我に有るもの未だ出來ざるうちは、生きたる信仰にあらず。

クリスチアンとして、有らざるを得ざる所のものは、第一、公明正大の心、第二、天地神明に對し崇高謹嚴なるの心、第三、不義を悪み不義を去り斷じて義を行ふの心なり。

クリスチアンと云ふものほど、立派のものは無く、又、クリスチアンほど仕方の無きものはなし。公明正大にして、天地神明に恥ぢず、身を公けに准じ、眞理正義の爲めに打死する人は立派なれど、心に善しと思ひ乍ら行はず、不義と思ひ乍ら之を去らず、神の前には恥ぢ、人の前には恥ぢ、たゞ立派なる言行を知るのみにして、之に就くもの出來ざるものほど憫れむべく、卑しむべく、仕方のないものはない。

モーゼは何如なる人ぞ、アブラハムは何如なる人ぞ、イザヤは何如なる人ぞ、エレミヤは何如なる人ぞ、ポーロ、ペテロは何如なる人ぞ、神が使ひ玉ふ所の人、神の御用を聞く所の人は、公明正大、高義奉公の人物ならぬはなし。然るに、些細の事に腹を立て、人を怨んだり、ソネンだり、悪口を言つたり、邪魔をしたりする輩が、何んでクリスチアンであらうや。又、己が罪を悪しゝと思ひ乍らこれを去るとも出來ず、反つて罪によりて樂しみを得ると云ふ如きであつて、何んで神に使はるるとを得やうや。

神の植えし木は榮ゆべし、神の植えざる木は拔かるべし、有てるものは尚ほ餘りあるべし、有たぬものもには有てるものをすら奪はるべし。月に泣かふが、花に泣かふが、號泣しやうが、慟哭しやうが、神の義しきに反くものは、悉とく、亡ぼさるゝ也。泰平を出さん爲に來らず、刄を出さん爲に來れりと言ひ玉へり。神の攝理に反くものは、悉とく打亡ぼさるゝ也。

大人豪傑が、小さな、卑しい人物に誤解せられ、妨害せられ、陷いれらるゝことは、ソクラテースも、孔子も、何如なる

大人物にもありしとなり。小人は、針の穴の如き見識と、糸の如き細き心をもつて推察をなす。然し、古より、國家の盛衰興亡は、此の大人物と、小人輩との増減勝敗によつて決する也。

世態十年看燗熟、家山万里夢依稀、
躬耕本是英豪事、老死南陽未必非。

三月記

万延元年三月三日水戸浪士非伊掃部頭を櫻田門外に殺す（卅五年前）
今年三月九日廿五年祝賀の大典あり
明治九年三月十二日、一六の休暇を日曜日に更む
明治六年三月十四日、外國人との婚嫁を許す
明治八年三月二十日、婦女の罪犯に枠鎖を用ふるを禁す
文治元年三月廿四日、義經、平氏と壇浦に戰ふ（七百十年前）
明治二十三年三月廿四日、女子高等師範學校設置の旨を公布せらる
文祿元年三月廿六日、太閤秀吉、朝鮮を伐つ（三百〇三年前）
明治元年三月廿九日、諸標榜に禁裏の字を付し及び菊章を濫用するを禁す

都名所

彼岸の櫻は。上野、日暮里、傳通院、谷中七面堂。
柳は。綾瀬、谷中經王寺、上野清水山、靖國神社。

論説

名論斷錦（第一集）

○自然の異性、製造の異性

ブレーク女史の曰く、

男子に屬し、女子に屬せりと稱する夫々の欠點短所は、殆んど常に教育の組織上に差異を來し、之に由りて時としては今日存在せる如き傾向を創造し、又時としては之を甚だ大ならしむ。男子に課するに數學論理學の如き、精密嚴重なる科學の課程を以てし、而して女子はその青年時代の多分を以て種々の美術的修煉に捧げんとを望み、かくの如くして男女に或は生來固有なるべき欠點短處は張大せられ、而して世は女子の理性を欠き、男子の美術心なきを嘆息す。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○共同分勞すべし、優劣貴賤なし

ダブリウ、ジエー、フオックス氏が『自然教育』に云く

予思ふに男子と男子との間にて、躰力の差異より起因せる差異をば抹殺せんとする進歩は、また男女間の差異をも抹殺するの傾向に進みつゝあることは明白なり。男子の此世に於て爲すべき事業職分は實躰上婦人の前に在るものと差異あることなし。女子もまた男子と同じく發達進歩すべき實在物を有して、その發達するや躰力の點に於ては、男子に劣らんも、その優美可愛の點に於ては之に優り、智識に於ては男子よりは論理的と間斷なき應用の力に乏しからんも、趣味に秀で、知覺辨別の精密なるに勝り、道德上にては決斷、精力及び活動の點に於て男子に劣らんも、柔和、親切、忍耐持久なるに秀づ。されど性の男女たるに關はらず、共に一層重要なることは、上帝が吾人に附與したる靈性を發達し、齊一なる排置をなし、倍養をなして、愈々益々吾人をして種々なる官能を與へて、此世に生存せしむる大目的を完成することを得せしむるにありとす。

○敎えずして愚なりと言ふ

ラシヤア、ラムモン、ロイは曰く、

女子は一般に男子よりも躰力の壯健及び元氣に劣れり、故に男子はその伴侶の柔弱なるを利として、其者が天然に賦與せられたる卓乎たる功績あることを承認せずして、女性は天性此等の功績を收むるに當らざるものなりと云ふに至れり。然れども吾人若し一考を煩はさんには、女子を非難するは果して正理公道に乖反せざるものなりや否やを容易に確むることを得ん。女子は悟性に於て劣等なりとするか、然らば汝は嘗て何處に於て彼等女子に供するに、其天然の能力を開發するに宜しき機會を以てしたるか。未だ之を供せざるに汝は安んぞよく女子は悟性に欠きたりと非難するを得んや。人もし學識智識を敎へられたるに拘はらず、彼尙ほ敎へられたるものを了解し或は保持する能はざらんには吾人は彼を短才劣智のものとするを得べし。然るに汝は一般に女子より敎育藝能を奪ひて、而して彼等を以て劣等なりとするは條理の許さゝる所なり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○智識の進歩に於ける婦人の勢力

バックルは、其名高き演説『智識進歩に於ける婦人の勢力』の中に曰く、

歸納法は個々別々の事實に重きを置き、演繹法は概括したる命題或は觀念に重きを置けり。偖て女子が演繹的、語を換へて云へば、理想的の法式を好む所以の理數多あり。女子は男子に比するに感情熱心想像の度に優れたるが故に、隨つて男子よりは理想界に生息せり。然るに男子に至ては女子よりも冷淡強硬嚴格なる構造を有せるが故に、女子よりも實行的にして、事實の範圍に在ると多く、隨て此に重きを置くの度一層高し。又女子をして男子よりも更らに演繹的ならしむる他の情實は、所謂直覺力あるものを有すると多きにあり。女子は男子を觀察する處を悉く觀察する能はされども觀察をなし得る處には之を爲すこと男子よりも敏捷なり。、、、、、、、、、女子は男子よりも考察すると速かなるが故に、女子は男子よりも更らに演繹的なると云ふ立言は、或種男子の味ふ能はざる所なるべきも、之を説明せんとせば一二にして止まざるなり。實際此立言の是なるとを承認するを拒むものは、たゞ彼の不幸、卑陋悖理の方法を以て價値あるものは勉めて之を遠け、勉めて錙銖の事を教へ、終には女子が微妙、輕快なる精神を傷害して復醫すべからざるに至らしむると甚だ稀ならざるに、尙ほ之を稱して女子教育となし、以て女子が思想を造るとの著るしく機敏なる處をば蒙塵するとの事實にして、その他またあるものなし。

○生意氣は生物識より生ず

若し大ひに學ばば決して生意氣の事なしと唱する人の曰く、女子がその家庭に在て、その責任を盡すに完かるべき方法として、彼女が至高なる精神培養は中々に害惡を與ふること無ふして、尤も大なる需用たらん。等しく男女を害するものは生聞、半學問及び、放肆、設けなき虛誇、浮華にして決して共に玄妙幽遠なる科學にはあらず。（マダム、マツロン）。婦人に在りては之を嫌忌せらるゝものは、その學問にあらずして、無智と大概ね之れと伴ふ虛飾浮華となり。女子の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

學問は預想外に得たる富をば全天下に向ひて示さんとする俄分限者の美服の如く、之に反して、男子の學問は恰も其生れながらにして有し、而して其性質中に織込まれたるが如き狀態にて、殆んど己の所有せるとを知覺せざる先祖傳來の爵位階級の如し。か丶る差異の來る所以は品物の乏しきにありて、その乏しきとは些少領する所ある女子をして自ら己れを非凡のものなりと忘想せしむ。されどその類の增加すると共に、謹愼してその獲る所を守るに至るべきとは理の當然なりとす(エリサベス、スミス)

○幼にして早く女性を輕んず

エリサベス、ハミルトン女史曰く、

男子が幼稚なる頃よりして、本來女子よりも卓越せりとの思想を抱けるがために生ぜる自負傲慢の念は、太だしきよりして彼等と女子との學問及び職分の差異に由りて大に增加す。男子は女子の務むる錙銖の技藝をば理窟なきものとして排擊し、而して彼等が夙に敎へらる丶智識の種類は優等なる權威あるものなりとの考は、その不遜橫柄なる輕蔑侮慢の念を高め、益々男女の間の隔るを遠からしむ。小量なる男子にありては、かく幼時既に抱ける女子の品性を凌辱輕侮するの念は、その根底を深ふして再び拔くべからず。

女學

塾舍內の和樂

井上次郎

女學校內の管理にて、最とも煩はしく且つ六かしきは、塾舍の取締方なるべし。二人、三人の同居すら、兎角、間だ柄の妙ならぬと多きものなるに、少なくとも三四十、多きは、百を超したる多人數を一つの棟の下に雜居せしめ、朝夕晝夜、春夏秋冬、內外大小、一事万事、いと細かなるとより最と大ひなる事柄に至るまで、悉とく相交涉せしめ、相關係せしむるなれば、之が調和親睦を旨として、而も其の敎化善導せられんとを冀ふに於ては、其が取締者たる人の心勞懸念は、察するに餘りあり。天下を治むるの苦勞は、大業にしてまた樂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

しみもあらんが、塾舍内の政治は、ひたすら痛心の種のみならんか。其取締たる人の深衷一々は、誰ありて能く之を悉さんや。何人が之に同情を表するとも、尚ほあき足らぬ心地のするなるべし。

扨て、何故に、かく塾舍内の取締は六かしきやと云ふに、之にさまざまの理由あり。其明白なる理由は、大方の人の推察する所ろなり。而して、人の推察し得ざる所の理由も亦た多きとなるが、茲に、尤とも見易くして而も人の大率ね察覺せざる一事あり。此事、意外の關係を生じ、之が爲めに塾舍内取締の大困難を引起す理由となるものなり。先づ、以て、其の一事を言はん。

其事たる、他なし、塾舍に對する不當の理想にして、之に格外の要求を爲し、本來得られまじき希望を之に求むるとにてあるなり。此の元來得られまじき希望を要求しながら、其の得られざるによりて不平を起し、斷えず沸々小言をもらして、舍内つねに面白からず、之より万事の快ちよく行はるゝとを澁滯せしむる也。

不當の要求、多くあれども、差し當りて何處にも多きは、塾舍内をホームの如くにせんと言へる要求、即はち其の第一のもの也。

元來、塾舍は、ホームの如くなり得まじきもの也。何如なる人傑ありて之を治むるとも、必らずや得てホームに對する理想を滿足せしめがたし。何んとなれば、塾舍なるものゝ組織がもとホームたるに適せざれば也。

抑そも、ホームには、父母あり、夫婦あり、老人あり、子供あり、此の陰陽、老少、長者兒孫の差別あると、一家の色味を調合するに大切の一要素なりとす。又、ホームには、血縁を同じくし、隨がつて趣味、好尙、氣風相似たるの人々、同一の變遷、同一の盛衰、同一の利害、同一の希望によりて相結合せらるゝと、最とも大切の要素なりとす。凡そ、此等の要素あればこそ、ホームは一つに合し、且つ、面白き味ある家族とはなるなれ。

然るに、塾舍に來集せる人々を誰なりやと見るに、父母昆弟を異にし、全然、生ひ立ち、習慣、氣風、好みなどを異にしたる純乎たる他人、四方八方より烏合し、たゞ一年二年の縁をもて暫らく袖の振合せを爲すのみ。而して、何れも血氣さ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

むなる我儘ざかりにして、親の膝下を初めて離れ未だ世の風波に圓るめられぬ當坐切出の角多き石なり。此の石、ゴロ〳〵として雜合す。たとひ衝突し撃打し、時として火花を發することはありとも、之が粘土の如く、餅の如く、膠の如く相ひ和合密着すること能わざるは、もとより當然のことならずや。

夫れ、他人をまぜぬ眞との內環同士にてすら、もしたゞ一人のすねもの、ひねれものなど在らんには、一家は之が爲めに風波を生じ、つねに、モメの斷えぬものならずや。然るに、三十四十、多くは百人以上の我儘さかりを同居せしめたる塾舍に於て、理想の和樂なきは、言ふ迄もなし。ことに、男女同もに居れば、意外の和樂を生ず。女計りにて宜しからず、男計りにて宜しからず、其中に一人二人の異性者が混ざりてすら忽まち圓滑調和の趣きを生ずること、これ天然の妙理なるが、塾舍には、この方便を望むべからず。

一家には、父の嚴と、母の慈と、相まつて圓滿の管理を行ふとなるに、女學校塾舍の取締は、女性一人にして、男女陰陽寬嚴刑恩の二方を兼該す。たとへば、後家身上の如し。牝鷄已を得ず晨をつくり、亡夫のあとを引うけたる、貞德ある未亡人も、一身、男主人の役目をかぬるによりて、男らしき威力を露はすとあらんは、當然なり。之に對して、餘りに情けうすしとか、又は、女らしからずとか評するは無理なるに、女學校の取締者に對するときは、往々此の誤まりたる評を爲すものすらある也。何れにせよ、之を純然たる母の如くにせんとするホームの理想は、無理の事なり。

以上、さま〳〵の理由を考ふるときは、塾舍は、決してホームの如くなりがたきもの也。然るに、之をホームとして注文要求し、其所望の達せざるによりて不平を起す。これ塾舍の治めがたき事情の一つなり。

不平あれば、取締の命令に快ちよく服することをせず。頭を下れ共、心には反抗し、手にて處辨しつゝ、思念の中にて破壞す。此狀態となれば、敎化和修の道、行はるゝこと固より難し。

左れば、塾舍を、ホームの如く思はすべからず、依然たる「塾」と心得しむべし。「塾」とは、即はち、「寄宿せしめたる學校」なり。此意義を確と覺悟せしめ、初めより、不當の理想を懷かしむべからず。多少の不和、多少の困難はあるものと心得し

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

め、もとより不自由は自然の附きものと勘辨して、たゞ之に忍耐し、之に修養するの決心を所有せしむべし。

然りと雖ども、遂に塾舍をして「ホーム」の如くたらしめんとは、理想たるに相違なし。此理想を畫きて、日夜之に進まんとに勉むるは、決して不可にあらず。其の進み逹するの日迄、一種の不平不滿を感ずるも亦可なり。不平不滿は、即はち進歩の種子なれば也。たゞ夫れ、此の不滿不平によりて現在の進歩を爲さず、現在に安心を爲さず、つねに落付かずして亂民の如くならんとするを制するを要とす。此の主旨によりて、即はち此の一文を草せし也。

左れば、實地の覺悟にて言はんに、塾舍をホームの如くせんとするは、將來の理想たらしむ可し、現在の要求たらしむべからず。之を取締者たり管理者たる人の理想たらしむべし、學生自分の理想たらしむべからず。寧ろ彼等をして由らしむべし、知らしむべからず。知らしむべし、要求せしむべからず。彼等は、餘り法外の注文を爲さず、安んじて、取締者の支配に順從し、只管ら勉學に餘念なかるべきもの也。斯の如くなれば、塾舍内の和樂なるものは自から生ずべし。

史傳

島津淡路守内室の述懷（下）

一名、女武勇の辨。

然れば、女迚も、武藝を心掛ると珍らしからず。その昔、井伊豊前の守が妻女は、勢州安濃津にて軍する、細川越中守が妻は、東照宮御在世の時に、忠氣をなして、大坂にて切腹し給ふよし。其外往古より如レ斯女甚多し。まして、中將の娘ならば、武藝などの心掛專要なりとおもふに付て、常々の身持、目に見えたるよふ成ことなども可レ有や、我等が心底如此と語り給へば、熊之助謹て始終を承り、恐ながら、近頃御尤の御儀に奉存候也。御女儀なれ共武士の家に御生被成候に、何の變りか候はん。私先祖伊集院忠信が妻、又なき武功のよし、數度の軍に手柄せしと多く御座候と申傳え候。如此も常々の心懸なくては叶ひ難し。誠に勇々敷御心掛に奉存候と、申上ければ、内室重て申されけるは、又其方に

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

尋るとあり、軍所へ女を制する人あり。我數多の書を見るに、軍所へ女を召連るとあり。傳へ聞く、神后皇后は、女帝にして、三韓を亡し玉ふ。其折柄は御懷胎にて御腹大にして御鎧も合難く、脇立と云物を作りて着し玉ふよし、此節、初めて脇立と云物始りし也。神功皇后は、女武者の元祖といふべし。夫より、今の世迄、女の持て遊ぶ羽子板といふ物、楯板を表して、羽子の子は矢を形どる。羽子板は陽になぞらへ、羽子の子は、陰になぞらへて、是を作り、ひろくやはら可成を以て、軍用をする。軍用の懸引、陰陽男女に出ざることなく、去るに依て、辨才天は女神なれども、軍の守護神とす。廿八宿の内に、室星府星女星。此の三ッの星は、則軍用の陣幕に此星を用ゐ、幕の乳は廿八宿を形に取て、縫様も男縫女縫とて、軍術の秘事なり。夫に、女を軍場へ除くと有は心得ず。案ずるに、妻女杯に心引されじと云譯ならん、女を除くは愚なるとなり。されば、楠正成さへ、味方の勢の内に女一人ある時は、味方六千騎の弱み也、敵方に女一人ある時は、味方六千騎の驍み也と、諫言の巻に見えたり。天地開てより、此方、神躰を稟受したる男女、いかでか隔か有ん。夫に付て我二巻の書を撰みたり。急ぎて作りたる書なれば、淺間敷ながら、急なる時の助にもならんかと思へり。則ち、女軍立武集と名付けたり。古今のあらゆる女武者を、万人の中より千人撰み、千人より百人をさぐり出して、繪にかゝせ、一人〱に武功の損失を書あらはして、百千女武者と名付て二巻とせり。此書、其方へ渡すなり。家中の妻女などへも見せて、心得にいたさせ、他所よりも望者有ば、無遠慮遣はすべし。常の心得にて、火事杯の時もうろたへざる者なり。ものにぎやうてんする故に、近火杯といへば、或は子を失ひ、財寶の爲に命を落す、難に逢も、常の心得惡き故なるべし。火事杯近所に有と聞ば、能き程に道具杯は片付て、家内の者共一所に引添て立退、それさへ唯立退てこそ能かるべきに、狼狽さわぐに付思はず怪我も出來、親子も見失ふなるべし、然し、常々女に似合ざると覺えたるは、愚痴の至りなり。尤も、女はゑしやくに餘るといへど、夫は時によりての事なるべし。平生其心掛けなくては、武士の女といひ難し。其上、女は腰のものなどはさゝぬものなり、などゝいふたる者多し。腰物は武士の魂なれば、女なりとて指まじき譯なし。常に心懸なきも

の故に火難杯の時たま〳〵差たればとて、誠に預り物致したるよふにて、甚だ見苦しきとなり。大名旗本の妻娘など勿論のとなるべし。急火と云ば、一向馬か歩行にて退くべし。乘物は不用心なり。火先へ廻り合ひ道せばき所など甚だ難儀なるべし。然ば主人を捨て家中計り先へ通抜るともならざる者なり。故に大勢の人迄も無益の死を遂るぞかし。左樣成時には、馬にて通らばいかよふにも、込合候とも、譬へ火の側などにても通抜べきなり。然れば其勢にて、各無事に通すべし。夫に我姿を人に見せまじきと、輿乘物に隠れしのびて、火事の時節家來に顔を見知らさゞれば、眼前側にても主人を知らざる如くなるべし。依て我は常に歩行立せ好むなり。怪き仲間の風情までも、顔を能く見知る爲なり。我斯樣にいふも、譯あり。先年大火事の時、去大名衆の奥方にて女中數多燒亡したるよし。是皆主人常々の心懸無き故なりと云ふべし、依て、其方にも申聞せ置間、此以後も、隣家より火事などあるとも、我等供とては一人もいらず、女共を立退せ、火事靜て下屋敷へ差越へし我は、馬にて立退なり。兼て、馬役へ其旨申付置くべしと物語りありける。

家政

良人のなぐさめ

ふみ子

朝はまだきに道芝の露踏み分けて、己が職務にと出行き、夕は入相の鐘に送られて我家へと歸り來まさむ良人終日の勞苦を、慰めむ爲に何をがなとは、不在を守り玉ふ内君たる方々の日々に思ひ煩ひ玉ふ處なるべし。されば良人のやがて歸り來まさむ時、いたいけなる幼な子のまわらぬ舌にて、お父さまお歸りと呼はりながら走り出て門外に迎へ、豫ての庭の教に背かで思ひ出せしやうに、チヨコリと小さき頭を下げて辭儀するも、良人の爲には此上なき慰なるべし。又堂に上りて垂白の父君母君が、嘸や勞れつらむに、はや打寛げよなど、己が年は忘れて良人を稚子のやうにいたわり玉ふ顔を仰ぎ見玉ふも、嬉しき心地のせらるゝ事なるべし。されど此瞬間の慰めに加へて、殊に大切なるものは、内君たる方々の、良人歡迎の準備を能く調へ置き玉はむ事にあり。若し此の用意に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

して缺くとあらむには、良人は歸宅匆々先づ快からぬ感じを起し玉ふとなるべし、されば夏は涼しき場所に席を設け、冬は兼て室內を暖めなどして、歡迎の意を表し置き玉ふべきはいふ迄もなけれど殊に晩餐の如きは心して自ら調理し玉ひ、時を移さずいざとて進め玉はむ事こそ願はしけれ。是責ては良人終日の勞れを慰むる內君第一着のつとめならむ。さて其後には夕顏棚の下涼みに、鬱を慰さめ玉ふともあるべし、爐を圍ひての夜語りに、一家團欒の樂を供し玉ふともあるべし。されど先其第一着たる晩餐のお菜良人の口に適はざらむには、內君の用意に缺くる所あるものなるを忘れ玉はで、かゝる事にも心を籠め玉ふと肝要なり。昔し明の太祖の皇后は、其身國母の貴き位に在せるにも拘らず、帝に供する食膳は、必自ら之れを嘗め試み玉へりとの事は載せて古きものゝ本にもあれば、內君たらむ方々の兼て知らせ玉ふ處なるべし。支那の敎とて一概に斥くべきにはあらじ。かゝる美事は今も心に留めて身に行ひ玉ふ方宜し。尙ほ其外にもいろいろあるべけれど、要するに赤心より出たる所作は、如何に小さき事にても、大に良人の心を慰むるに足るものなれば常々其心掛あらまほしき事なり。されど亦良人の方にありては、內君がかゝる小事の末にまで意を注ぎて、われを慰めむとの心を寄せ玉ふと知り玉はゞ

○內君に對しての同情

の念ひは必ず酬ひ玉はむとを要す。其は良人の慰めに、內君の同情を要すると切なるが如く、內君の慰めには亦良人の同情大なる力あるべければなり。而して良人よりの同情といふは、敢て內君の用事を手傳ひて、勞力の助けをなし玉へといふには非ず、內君の心遣ひなみ〳〵ならぬとを察し玉はゞ、感謝の念を以て之れを受け、滿足の意を表し玉ふとを忘れ玉はぬのみにて可なり。良人にして一片此心あらむには、內君にありては百の勞苦も、千々の心遣ひも敢て辭し玉ふ所には非るべし。然るに假令ば內君苦心の結果として、膳部に顯はれ來りたるお菜の如きをも、一概に不味しとて之れを斥け玉ひ、絕て何ものにも滿足し玉はぬ樣子ならむには、內君たる方にありて如何ばかり心憂き事ならむか、故に不味なるものあらむ時には、責て之れに箸を着けず、取殘し置き玉ふ位の事に止められたし。然らむには內君の方に在りても、這は口

に適わざりしならむとの事を察し其翌日は他のものを供し玉ふの工夫もあらむ。然るに内君苦心の勞は毫も察し玉はで、いつも〳〵其不味をのみ責め玉はむには、如何に心ある内君なればとて、何となく本意なき心地して、其が準備をなす時にも「ア、又迚もお氣に入るまい」との歎を抱き玉ふとなるべし。尚ほ其外に良人たらむ方々に願はしき事は、大なる事故のなからむ限りは、成るべく晩餐を家に歸りて后に喫し玉ひ、内君の準備をして、徒勞に屬せしめ玉ふなからむとにあり。是亦甚小さき事のやうなれど、一家親睦の上に大なる關係あるとなり。若し然らずして良人たらむ方或は遲く或は早く、家に歸り玉ふの時刻多く一定せず、間々出先より他に廻りて、晩餐を濟せ玉ふ事屢あらむには、折角準備して待ちに待ち玉ひたる内君の失意如何計にてあるべきか。かゝる不規則なる事度重なれば、内君の方にても自然其準備に手違ひを來し、良人の歸宅あると同時に、家内に俄の混雜を起し、バタ〳〵と立ち騷ぎ玉ふ騷がしき音のみは良人に聞て、其準備は容易に調はざるとなどもあらむ、さある時には良人にとりても誠に快からぬ事なるべし。故に良人たる方の職務繁劇にて、一定の時間に歸宅し得られざる人は例外として、先づ大凡定まりたる時刻に歸宅し得らるゝの方々は、成るべく其時を違へ玉はぬやうになし玉ひて他へ招かれ、若くは遠方へ至り玉ひたる時の外は、必ず家に歸りて后晩餐を喫し玉ふの習はしとなし玉はむには如何ばかり双方の都合宜しき事ならむ。さある時は、内君は時刻移るも自ら餓を忍びて良人を待ち、良人も亦家に歸りて后打寛ぎて内君と共に食を喫せむとを樂しみとし、玆に始めて團欒の樂みといふものを味ひ得らるゝとなるべし。然らざれば何事も思ひ〳〵離れ〳〵の姿となりて一家の親睦を傷ふと大方ならざるべし。終に臨みて内君の代言として、大方の良人に告げ參らせ度事は内君の仕事たる多く一家内の些事に止まることとなれば、外觀にこそ誠に無造作なることのやうには見ゆれども、又た内君たるの地位に立ち見れば隨分に勞苦多きものなり。先づ其大凡の事に就きていはゞ、家の大小家族の多寡に係らず、夫れ相應に日々なさで叶はぬ用事ある外に、四季の移り換りには家族一躰の衣類の心遣ひより親族知己への贈りもの、其の他屋根の漏り、疊の破れ、塵溜めの掃除、飼猫の死生に至るまで一家の内にありとあらゆる出來事は悉く内君の注意を煩は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

さぬものとてはなき事なれば、隨分に氣苦勞の絶えぬ事なり。其が上是等のことの始末をなすにも、經濟上の關係を離れてなす事を得るならんには、別段心を勞するといふ程には非るべきも、金錢は成るべく費さぬやうになして、爲すべき事は殘りなく爲し行では叶はぬ事にしあれば、双方への心配りはなか〳〵容易き事に非ず。其が上良人の兄弟姉妹など同居なし玉ふ人などあらむには、隨て又夫れ〳〵の心遣ひもあり、內君とて必しも淸閑なるものゝみにあらねば、良人たらむ方々は、內君の心の底に潜める憂さつらさをも幾分か汲み分け玉ひて、慰めらるゝのみを本意となし玉はず、折に觸れては內君の心をも慰め玉はむことを祈るなり。若しこの求めにして餘りに欲深き事を思ひ玉はむには、責ては內君厚意の慰めに對し、滿足の意を表し玉ひて內君の心に苦心の甲斐ありしと喜び玉ふの慰めのみにても得せしめられ度事にこそ。

◎姑氣質　內の嫁は、色は黑し口は大きいし、私が見ては少しも別品さは思はれないよ。夫だのに伜はいくらかいゝ女だと思つてる樣子なんだもの、ほんとに呆れて仕舞うよ。出來る事ならあの伜に、私の十七八の娘盛りの姿が見せたかつたよ。夫れさ見たならいくらお心よしの伜だつて、まさかにあんなものをいゝ女だとは思はなかつたらふに……。

つれ〴〵草

女學生の負債

曉の女

飛鳥山を右に見て、左の小道を二町ほど走らせたる車の上なる客、フト眼を擧げて、空中に長蛇の如く橫たはれる筧に心づき

モシ、車屋さん、あれは何ですネ？

あれですか、あれは元と製紙部の分局とかでつかつた水を運ぶ樋なんです、

アヽ、なるほど、水が見へてる！大した仕掛の樣だネ。

へー、大したにも何にも、もうこゝまで來升と、モウ此流れ川になつて居り升、樋は本のこゝまでゞすが、どふして、これまでの處が大したお金なんです。

へーッ、それじやア、何かネ、此小川は元からかうしてあるのじやないといふのかへ？

どふいたし升て、此水ははる〳〵板橋から引いて來たもん

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

で、中〳〵、その安い水だア違ひ升んで、へイ、何でも、半里じやア利升めへよ、引張つて來た路程は。

それはまた、大變な工事だチ、水道にとつた地面の値計りでも容易ならない事だらう、

へイ、それに、何です、此水ッてい升のが、これ又大した役を持つてる川から引いて來升んでチ。

それじやア、元の方も流れは大きくないんだチ、

いゝへ何、隨分大きいもんですがチ、何にしても二十四ヶ村ていものは、其川のおかげで、田畑アつくつて升からチ、二十四ヶ村ていば、大きなもんです、米計りも石數にして二万何千ていい大層ですからチ、へイ、普段は先づよふがすが、これで旱魃てい升と、流れは細くなる、水の入要は其割に段〳〵多くなるていので、村同士、大喧嘩アおつぱじめるともあるんですから、それですから、元製紙部の方で水を引く談判が有つた時分にも、故障が大分有つた樣子で、製紙部の方じや、旱魃の時は、キット遠慮するていので、落著がついたさうです。

ハ、ア、それは尤もな談判だチ、それで、今はモウ、其水が不用になつてるのかへ?

ヤア、何だか、そんな鹽梅で、惜いもんですな。

車の上なる婦人は女子敎育に聊か因緣ある人なり。近く二十年間、本邦の女子敎育の爲めに幾多の有志が、幾多の思想、幾多の金力を消し去りたるとをおもひ、殊に博愛主義の外國人が、万里の波濤を越へて專心此事業を遂げしと、剩さへ寡婦、貧兒が二文三文の義捐は敎育資の過半を造りしとなど思ひ廻らすにつけ、計らず聞し小流の因果來歷になぞらふ可き處多し。

嗚呼、明治の女子敎育、夥多の協力より成立し女子敎育、非常なる屬望の中に創められし女子敎育は、果して幾干の効を奏せしや?。果して幾干の影響を我邦に及ぼせしや。又社會に幾干の純潔と品德とを加へしや。顧りみて慨歎の外なく、殊に一身上負ふ處の負債いよ〳〵重く彌よ苦敷を覺ゆ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雜録

今昔物價の相違

秋玉庵

金錢の相場は、世の進歩と逆比例をなすものにや、われは經濟學といふもの丶門、覗きても見たることなければ、一定の學説はいかゞや、其は知る所に非るも、世間の實際はさる趣をわれらに告ぐるもの丶如し、試に今生き殘れる老人に就て聞くも、昔の金一兩といふものは、なか〳〵今われらが考ふる、金一圓といふが如き下直なる相場のものに非ず、其貴とさは、殆んど今の十圓ほどにも匹敵するやうなり。是は昔と今との比較なれど、今と今とを比べ見るも、地方と東京市中とは、大凡の物價に、よほどの相違あり、日用の米味噌等を始めとし、家賃女下の給料、大工の手間賃など何れも高直にて、始めて地方より出京したる主婦などにありては、日々口をアングリあきて、ほんとにウッカリ何も買はれないとの驚きを抱かしめざるものは稀なり。(但東京にても、洋服の古手、古本、燒芋などは地方よりも下直なるの例外はあれど)されば東京にての一圓は、地方にての一圓よりも其はたらき余程に狹し。されど亦之れを歐米等の如き生活の度高き場所へ持ち行けば、其價値實に東京にての二三十錢にも相當せぬ程なりといへば、世の進歩につれて、多くの金錢を以て少きものを買得ることとなり漸次金錢の相場を下落せしむるは疑なきもの丶如し。

以上は贅言に屬するも、ふるきもの丶本の中に、左の如き直段書を掲げしを見て、餘りに昔と今の物價の相異の甚しきに驚き、序ながら兼て思へるふしを記せしなり。

さて其直段書といふは、慶安五年四月十五日より、同廿二日まで(慶安五年は今より大凡二百四十餘年程前)水府の御宮別當なる東叡山中吉祥院が江戸より水戸へ下りたりし時分の賄料請取手形の書面寫なりとて天保十四年の頃出版の書物に載せあり。而して其直段の下直なるとは、其頃の著者にも意外なりしと見へて「其下直なるとおどろく計なり」と記しありたり。天保十四年の著者にして猶且然り、況してや今の明治の御代に生息するわれら爭でか其意外なるに驚かざらむや。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一酒五升		一升に付	四拾文
一豆腐	七拾五挺	壹挺に付	代五文ヅヽ
一蒟蒻	六拾挺	同	代貳文ヅヽ
一午蒡	三拾把		代八文七分三り
一麩	百四拾五		代壹文九分三り
一昆布	五把	壹把に付	代二拾四文ヅヽ
一薯蕷	三拾本	壹本に付	代九文貳分三り
一蕨	百把	拾把に付	代四文八分ヅヽ
一里いも	八升	壹升に付	代七文ヅヽ
一うど	三拾把	拾把に付	代四拾八文ヅヽ
一若和布			代四拾五文
一あらめ	壹把		代三拾五文
一たゝみ海苔	拾把	壹把に付	代七文ヅヽ
一椎茸	貳升	壹升に付	代八拾文ヅヽ
一とさかのり	貳升	同	代四拾八文ヅヽ
一干瓢	拾把	壹把に付	代拾七文三分ヅヽ
一岩たけ	三升	壹升に付	代貳拾文ヅヽ
一拘杞			代拾五文

一うこぎ			代拾八文
一松露			代貳拾五文
一生姜	壹升五合	壹升に付	代三拾文ヅヽ
一けし	五合	壹升に付	代九文
一からし	壹升		代七拾文
一菓子いろ〳〵	五升		代貳百文
一白はし	五拾膳		代四拾文
一たば粉			代百四十八文
一煙管らう共	三挺	壹挺に付	代拾六文ヅヽ
一しほ	三升	壹升に付	代九文六分ヅヽ
一らうそく	拾挺	壹挺に付	代貳拾四文
一火ばし	一膳		代三拾文
一酒のかす	壹升		代貳拾文
一小豆	貳升	壹升に付	代貳拾四文
一粟	貳拾		代貳拾五文
一玉じやくし	三本	壹本に付	代八文ヅヽ
一貝じやくし	五本	壹本に付	代四文ヅヽ
一うどんそば切	三度に付		代六百文

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

一荏油　貳升五合壹升に付　代百三文貳分ヅヽ
一庖丁人　日雇錢　一日に付　代三拾貳文
　但十五日より十七日まで日々三人ヅヽ、十八日より廿二日まで日々壹人ヅヽ
一人足　日雇錢　一日に付　代貳拾四文ヅヽ
　但十五日一日に三人
惣〆金貳分　鐚五貫三百三文
　此金壹兩貳分と鐚五百五拾壹文
　　但鐚壹分に付　九百四十八文ノ直段

とあり。是にて惣勢幾人を賄ひしものなるや、其は分明ならざるも、兎に角此惣〆高の金員にて、今日是ほどのものを購ひ得らるべきや。試に今の價にて計算し玉はむには、亦一興ともなりぬべし。

又同書に、明和九年江戸大火の時、江戸中賣りありきたる書き付なりとて、其節の相塲あらましを記せるものを見るに、

一錢兩に三貫八百文ほど
一米　百文ニ壹升
一戸板　金壹分貳枚
一古疊　三百五拾文
一こも　百文に四枚
一筵　同　貳枚
一へつつい二た口古下　七百五拾文
一松板兩に貳拾六枚
一わらじ　一足三拾貳文
一摺り鉢　大貳百三拾貳文　中百七拾貳文　小百八拾貳文
一すりこ木　五拾文　三拾文
一ほうろく　貳拾八文
一小鍋　新規　貳百文
一小あんどん　三百文

是亦驚くべき安價ならずや。なほ此外にも古き記錄を調べなばいろ〳〵あるべけれども、玆には只ふと見當りたるものゝみを記しぬ。

世間万事元悠々、此身長短歸ニ山丘一。
閉レ門堅坐愈生レ愁、未レ死且ニ復秉レ燭遊一。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

片々

○何如にして大典を賀し奉らん

如何にして來る九日の大典を表賀し奉らんか。前年の憲法發布式に於けると同樣にせよとの旨あれば、世の人の爲さんがほどの推し測られて豫じめ掛念すべきと最と多し。前年は、酒に亂れ、興に耽り、放蕩無禮の振舞に狂ひて、之をもて祝式を擧ると心得たる族多く、中にも不潔なる營業者を公然押し立てゝ、單に高潔の德に恥ぢざるのみか、立憲政體の風俗をすら辨まへざるもの少からざりしは、千歲の遺憾にてありき。然るに此度は、兩陛下千代の御睦みをことほぎ奉つるの主旨なれば、殊に端莊謹嚴の心得なかる可らず。承はるに、宮中此回の大典に於ては、一ときは靜肅を命うせ、万事極めて重厚ならんよを旨とし遊ばさるゝよしに付きては、臣下凡衆たらんものは、何更一入の心得あるべき儀なり。左れば、男女別あり、夫婦儀あるの道を一層振肅し、かりそめにも陋鹵放埒の趣きあつて、此の聖なる機會を汚がすとあるべからず。酒に醉ひ、遊びに興じて、偶然にも、淫猥がましき風態を形はすものあらんには、實に以て聖德を憶ひ奉らざる不臣の人とこそ貶すべきなれ。願はしきは、戶々同族、相和らぎて親しく會同し、宮庭の御多福千代に八千代に盡き瀨なきとを祝ひ、皇恩の流布する所、一家之に浴して樂しみ伏儷親子の間だに限りなきとを感謝し、門前の國旗、うらゝかなる春の和風にひるがへると共に、戶内の一同、物靜かに情深く心より此の大典を祝し奉まつらんと、是れ也。

年	式	年	式
初年	綿婚式	二年	紙婚式
三年	皮婚式	五年	木婚式
七年	羊毛婚姻式	十年	錫婚式
十二年	リンネル婚姻式	十五年	水晶婚姻式
二十年	陶器婚姻式	二十五年	銀婚式
三十年	眞珠婚姻式	四十年	ルービー婚姻式
五十年	金婚式	七十五年	金剛石婚姻式

海外女報

◎倫敦に於る基督教婦人會の最近報告によりて見に、同市中此會の設立にかゝる建物は本部已にて、四十棟の多きに及べる由。右は集會處の外、更に救育處、貧民宿泊處、飲食物施與處等なり。此外支部に於る建物は百餘に及べり。其他運動

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

場二個あり。宗教部、社交部、教育部の外、貧困並に疾病等に罹りたる婦女子の便を計りて、雇人口入の如き、內職取次の如き、病者看護並に病後の手當、旅人の案內に至るまで、實に此會の事業にして、一万四千人の會員は各部に於て着々事業の成功を謀り居る由なり。婦人の公共事業稍徵々たる本邦にとりては誠に羨しき報告にこそ。

◎米國にて教育世界に有名なる、イリザベス、ピーバデ孃は九十才の高齢にて、去る一月三日長逝せり。孃は三十年間幼稚園教育に最も心を注ぎたり。孃が殊に幼稚園事業に熱心せるは、或獨逸紳士の令孃にて六才計りなるが、フレーベル派の幼稚園教育を受けたりとて、非常に英敏なるに感嘆し、さては研究を始めたる由也。孃逝きて教育界俄に寂寥をつげたりとて追悼する者多し。

◎ドロセヤ、クラムプ孃は先頃巴里に於て數學博士の學號を受けたり。同市にて此學號を得たる婦人は孃を以て嚆矢とす。

◎去年十二月下旬のユーニオン、シグナルにウィラード孃の自轉車乘の事を記載して曰く、

ウィラード孃、近着の親書によれば、追々二輪車にも熟れらるゝ樣子なり。三輪車よりは疾に卒業して、近ごろは千鳥足の乘馬に跨りて、一日二度の運動を勉め候とは、同孃が自ら認め玉ふ處なり。二輪は未だ已がまゝに運べずとて、さはのたまふならん。孃は都を去る三十哩の閑靜なる別莊に病氣療養最中にて、壯年の一婦人師となつて頻りに自轉車乘を傳授せらるゝ由。親書中に下の文字見へたり「昨日は誠に面白き思いたし候ひき。一度は落たれど、さして苦にはならず候。自轉車と申す機械は心理上よりも、道德上よりも研究す可き問題と存じ候。私の經驗も一度は記してお眼にかけ度しと存候。」

◎佛國學術研究會は近頃一婦人の遺物として十万フランの寄附を得たり。但し注文つきなり。右は十年以內に天上の物體（日月星宿の類なる可し）と交通の途を發見し、應答を得たる人への賞與に當つるなりと。

◎英國婦人禁酒會は其機關としてウマンス、シグナルてふ雜誌一號を發兌せり。レーデ、ヘンレ自ら編輯の勞をとられ、米國に於けるユニオン、シグナルと同格なるべしといふ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

時報

◎學校、教育

●望月興三郎氏の調査　前號「片々」に記せし同氏が女子教育の調査は左の項目に準據せられたるなりとぞ

女學校調査事項

一　地　所

(1)總坪數

二　建　物

(1)校舍棟數(イ)石造幾棟(ロ)木造幾棟
(2)敎場數
(3)敎場坪數
(4)寄宿舍室數
(5)寄宿舍坪數

三　前年度經費

(1)收入總額
(2)授業料總額
(3)補助或ハ寄附額
(4)基本金額
(5)負債額(若シ有ラバ)
(6)敎師俸給總額附最高及最低月給

四　職　員

(1)校長校主或ハ敎頭ノ有無
(2)本邦敎員(イ)男幾名(ロ)女幾名
(3)外國敎員(イ)男幾名(ロ)女幾名
(4)庶務會計或ハ會計等男幾名女幾名
(5)本邦或ハ外國ノ學位所有者數

五　生　徒

(1)現在生徒員數
(2)同府縣別
(3)同信者未信者別
(4)同父兄職業別
(5)同最長最少年齡
(6)卒業生年別員數
(7)同府縣
(8)同年別平均年齡
(9)同業務別已婚(配偶者業別)、敎育、傳道、俯學實業、家居、各幾名
(10)創立以來生徒員數表

明治	入學	退學	卒業	年末現在
何年	、　、	、　、	、　、	、　、
何年	、　、	、　、	、　、	、　、

六　學　費

(1)寄宿生平均毎月ノ學費額

七　學科及敎授法

(1)敎科用書
(2)習字科(イ)手本ハ木版カ石摺カ又肉筆カ(ロ)字形ノ大サ如何、大字何程、細字何程
(3)繪畫科(イ)毛筆畫カ鉛筆畫カ(ロ)手本ハ如何
(4)作文科(イ)文體ノ標準(ロ)敎授ノ方法
(5)裁縫科(イ)學科細目(ロ)試驗ノ方法
(6)女禮科(和カ洋カ將タ折衷カ)
(7)附屬小學校及幼稚園有無及有ラバ其成績

八　寄宿舍制度

(1)舍監或ハ取締ノ年齡及來歷
(2)寄宿生取締ノ概略
(3)舍内ニ住居スル外國女敎師(若シ有ラバ)本邦舍監トノ關係
(4)食堂ノ組織割烹實習(若シ有ラバ)ノ方法
(5)栖掃受付等ニ生徒ヲ使役スル(若シ有ラバ)方法

九　集　會

(1)學科外諸集合表

名稱	目的性質	日時	時間
文學會	文學奬勵ノ爲全校出席ス可キ義務アリ	何週日午後何時ヨリ	何時間
、　、	、　、	、　、	、　、

十　圖書及敎具

(1)圖書和漢洋各幾冊
(2)器械(地理、生理、理化學等各幾個)
(3)標本個數金石、植物、動物各幾個

●仙臺女學校設立の計畫　仙臺市に高等女學校を設立するの必要は曩に船越前知事が唱導したる所なるが這回同市數名の敎育者發起となり愈〻同校設立の計畫に付き協議する所ありしと

●裁縫科及補習科趣意書　高知市小學校へ設置せんとする裁縫及補習兩科趣意書は左の通りなりと

裁縫及補習科の趣意

普通敎育の忽にすへからさるは今更喋々すべき迄も無之既に去る明治廿五年四月以來監督當業者諸氏に於て各自其普及に盡力せられ現今就學者の多きを見るに至りしは實に欣喜の至りなり然るに熟ら五六年前に溯り其當時の狀勢を以て今日と對比せしに女子の就學存外に增加を見ず學齡者に比例して或は減する如

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

きの現象にあり是は畢竟生活の度に異變を生じたるより起る所の結果たる可きも彼の父兄の多數は或は謂らく目下自己が裕ならざるの家計を以て子弟をして高等小學科を履修せしむるの資力なし顧みて尋常小學校の卒業生を見るに幾分の學力を具ふるなきにあらざるも衣服補綴の仕方をも解せず其卒業後家に在て家政の補助をなすの才能に乏し故に女兒をして家政の補助をなさしめんとするものは寧ろ最初より裁縫專修の家に託し補綴裁縫等の業に慣れしむるの勝れるに如かざるなりと是は蓋し方今女子學齡者父兄の多數が懷抱せる意見にして彼の就學猶豫出願者が猶豫を乖れ貴重なる學齡年間を遂に全く猶豫中に經過しあるの重なる原因とも云ふ可し眞に慨歎に堪へざる儀なり依て爲に尋常科に裁縫專修の教員を備へて本科履修の傍四學年女生より之を課することとなさば一には文部省が小學に裁縫科を設かるゝ趣旨にも叶ふべく一には前に所謂父兄が希望の幾部を滿たしめ就學增加の一助とも成る可し且右專科教員には本科生徒教授時間外に於て廣く他の科外生を養成せしむるに至ては其教員の名望に從ひて或は多數の科外生をも得可く是より生ずる謝金を以て右裁縫新設の費用をも助け得るに至る可し前項既に述るが如く高等小學科に履修せしむる資力なき父兄寡からず加之尋常科卒業生が其儘才能を以て家政の補助に應し難きを歎するは方今父兄の多數を占むるが如き狀況に有之此如きは教育上實に容易ならざる儀に在て万一此感想をして尙一層深きを加へしめば啻に教育の價値を損するのみならず其餘弊學校の教育を輕視して一家私設の教授場を重ずるに至らは隨て就學者に影響するの憂なきにあらず依て前項裁縫科の新設と共に爰に補習科を設置し尋常科卒業の後高等科に入るの資力なく從前受くる所の教育を空しからしむるが如き子弟を集て之を教養し其教員には即ち本校本科教員二名專科(裁縫教員)一名を以て其教授を擔當せしめば是亦父兄の希望を滿たし前顯の餘弊をも防ぐに於て大に利益あるべし右費用の如きは其生徒若干を得るにあらば即ち收支相償ひ新費用の增加を見るなくして辨じ得べく即一名の專科教員を置きて裁縫科補習科の新設をなす可く所謂一擧兩全の策と云ふ可し(土陽新報)

●裁縫專修科　大坂市瓦町三丁目金甌學校にては女子部に裁縫專修科を設け其授業時間は小學は同一にて裁縫の外に修身容儀の二科を加へ毎日二時間づゝ教授するより目下生徒は十五名にて猶增加の勢あり月謝は二十錢なりと

◎集　會

●婦人慈善會　伯州米子町小山某女の發起にて同地に婦人慈善會なるものを起し去十四日其發會式を擧行し會主の開會の趣旨其他家庭教育家事經濟等婦人に有益なる談話をなし散會せしが目下會員五十餘名あり會日は毎月火曜日にて毎會々員は金壹圓宛を持寄り之を貯蓄し以て窮民救助の資に充て又一家に於て不用のものあるときは悉く同會に持行きて貧民に惠與する規定なる由松江日報に見ゆ

●松江市教育慈善會規則　(今正に計畫中にして是れは發起者の决せる按文なり)一本會は初等教育の普及發達を計る爲め貧窮者子女の學資を補助するを以て目的とす(一)本會は會務を處理する爲め會長一名世話係七名を置く但會長は會員の推撰に依り世話係は會長の特撰とす(一)本會に入會せんと欲する者は住所姓名及び其の株數を記載して會長に報告すへし但退會せんとする者及株數の增減をなさんとする者は其旨會長に通報するを要す(一)本會々員は本會の目的を達す々爲め一株以上の株金を出す可し但し一株は一ヶ月金五厘とす(一)本會へ領收したる現金は松江銀行へ預入るゝものとす(一)本會の收支決算は毎年一度便宜の方法に據り會員へ報告するものとす(一)本會は處務の便を計る爲め本市各小學校通學區域を一區とし毎區世話係一人之を擔當す(山陰新聞)

●婦人智德會　仝會は去る十七日高知市中島町上一丁目に本部を設置し藤井賴母永沼小一郎氏等を招待して發會式を擧行せし由なるが實業教師には裁縫に中島熊仝助員に桑名瀧智字に田村しげ織織に門田ちよ仝助員に糸川マツの諸女子あり此の外池上孟澄氏に無料にて漢學を教授する由なり

◎美　談

●孝行夫婦賞を受く　岸田龍藏氏は德島縣名東郡新居村の人、村部カツ女は其妻なり、夫婦心を一にして孝養怠らざる二十年志操の渝らざる一日の如し實に近世に於て稀に聞くところ、知事村上君之れを奇特として賞金を與ふ夫婦の榮譽之れに過ぎざるべしと、左に其文を揭げて世の龜鑑とす(藝備日々新聞)

名東郡新居村　岸　田　龍　藏

資性溫良幼にして父母を喪ひ祖母の爲めに育養せらる長するに及びて能く祖母に奉仕し嗜好必ず薦め寒暄深く意を用ひ其外出するや自から腕車を挽き敢て之を他人に委せず客年四月祖母の疾病に罹るに及んで看護周到湯藥怠るなし志操の渝らざることと二十餘年洵に奇特とす依て爲其賞金參圓下賜候事

明治廿七年二月十五日

德島縣知事正五位勳五等　村　上　義　雄

名東郡新居村　岸田龍藏妻　村　部　カ　ツ

資性順良夫家に嫁するや能く家務に精勵し又能く夫及其祖母に奉仕し孝貞の道至らざるなし客年四月祖母疾病に罹るに及んで夫と共に看護撫按し湯藥怠るなし其志操の堅き殆んど廿年一日の如く洵に奇特とす依て爲其賞金貳圓下賜候事

明治廿七年二月十五日

德島縣知事正五位勳五等　村　上　義　雄

●特志者　山形縣飽海郡鵜渡川原村宮本逵彌氏は夙に慈善の志深く是迄も米穀衣類等を貧民へ施與せし事數々なりしが此頃も亦四斗入の白米四俵味噌五十貫匁を村民中の貧者へ惠與したりと云ふ

●孝子　山形縣飽海郡酒田下内町五十三番地内十二號(俗堀端)の藤塚熊太郎と云ふ青年あり其父又右衛門なる者去る明治十七年二月中病にかゝり種々療養せしも

其甲斐なく遂に病沒せり母は盲目にして家政を料理する能はざるを以て青年の身なれども家事悉皆を一身に負ひて整理し且つ盲母に孝養する叮嚀親切至らざるなり其身は活版所に雇はれ僅かの給料を得其の餘暇學事に志ざし益友を求め交際をなし毎夜深更に至るまで孜々勉强して怠ることなく其孝養と勤勉なる志操十數年の間幾んど一日の如くなるは實に感ずべき青年者なり

●孝行なる夫婦　廣島縣沼田郡伴村大字大塚二十九番邸平民石工職川本藤右衛門(天保十二年正月生)妻りヱ(弘化元年二月生)の夫婦は今年九十六歲の養母カツに對して孝行なることを之を聞くものは感心せざるなし、赤貧の中より常に衣類食事等何に不足なく與へて絕て養母の心に背きしことなどはなく每日夫婦のものは交るがはる養母の傍に侍べりて卅餘年一日の如く孝養を盡くし居るより遂に駐在所巡査の聞く所となりしが同巡査も之を殊勝の事に思ひて此程上官に上申したりといふ

●同　高知縣土佐郡森村字相川士族森岡幸馬(五十)同人妻梅(三十九)と云ふは夫婦の間睦まじく殊に性質善良にして兩親に事へて能く孝を盡くし先年七十に餘る老母中風症に罹り數年間病床に橫臥せしが其間夫婦心を合せて介抱に手を盡せし甲斐もなく昨年夏の頃死去したり父伊平も亦本年七十に餘る高齡にて平素頑健の氣味あるに此程又中風に罹り身体全く自由ならずして偶嫌はず大小便をなし每日兩三回は蓐を汚すと雖も少しも厭ふ事なく夫婦互に能く世話をなし且父伊平は最も餅を好む性なるより年中何時にても餅を備へありて父の需を空しくしたることとなく其の注意が周到にして孝養の至れるには隣保相傳へて歎賞せぬ者もなしとぞ　(土陽新報)

◎片　々

●裁縫機の發明　大坂市北區古川町機械製造家島谷為兵衛氏は數年間工夫を凝して昨年中遂に一種の裁縫機を發明し農商務省特許局より專賣特許を得たるに因り河野徹明、杉野興宗外數氏の協同を得て資本金壹萬円を醵し特許器械合資會社と稱するものを設立せんとし北區樋の上町百六十六番屋敷に製造事務所を設けたり此機械の構造は四箇輪と曲針とを具へて其狀殆んど西洋ミシンの如し其の使用法は少しも煩雜ならず手縫と同一の縫目を生ぜしめ操作中針の脫出することなく縫目を種種適意に變成せしむるを得る仕組にて絹布類を縫ふには絹針を用ひ木綿類には木綿針を用ふ一簡の機械にて一日十枚の絹綿入を縫ふこと容易なりと云ふ發明者島谷氏は尙此外に度量機、個數器、時計、自轉車等の改良を企て已に特許出願に及べるものもありとぞ大坂朝日新聞に見ゆ

●婦人の商事裁判官選擧權に關する法案　佛國元老院は商事に關係ある婦人に商事裁判官選擧權を付與することに關する法案を八十四票に對する百三十二票の多數を以て可決せり是れ婦人をして投票權を有せしむる制度を施行する第一著の手段として目すべきものなりと

○明治廿六年度中愛博社貯金部報告

本部は役員生徒の勞働に由り得たるもの及び同志の人により補助せられたる者の現金收入の一分の一又特別レプタとして與へられたるものを貯蓄して孤兒教育(但し孤兒將來獨立の爲めの費用)傳道或は役員生徒の不時の病氣費或は貧民施療救助費に充て又本社財政窮乏したるときは本部の金を流用して借財の難を免れしむる等主要の目的なり廿六年度中は本部の準備經驗の年にして本年に至り略ぼ整頓したれば每月報告書に記載すべし

廿六年度總收入高四拾壹圓三十二錢五厘

内譯

金五圓廿二錢七厘　前年の越高

金四十六圓壹錢五厘　廿六年中レプタ收入

金四圓五十七錢三厘　故社長追悼義捐金收入

金三圓二十四錢一厘　醫療器械費却代

〆

總支出高四十圓卅三錢八厘

内譯

金八圓八十七錢　傳道費(教會獻金)

金十三圓四十二錢九厘　故社長病氣療養費

金八十六錢七厘　貧民施療并に救助費

金八圓三拾錢　博愛社會計へ補助

金五圓七錢七厘　役員生徒慰勞費

金四圓　博愛社不時の損耗金支辨

差引殘金八十八錢七厘　現在金

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

東京華族女學校學監下田歌子先生序
全 囑托敎授關根正直先生編輯
全 敎授坂正臣先生編輯幷書

筆のゆきかひ

全二冊 一冊 正價金廿八錢 郵税金六錢 宛

本書は多年女子敎育に從事せらるゝ兩先生の編輯を請ひたる所にして文躰は古雅に過ぎず卑俗に陷らず優美にして實用を兼ねたる女子消息文の模範たり且旁ら習字の手本とも成るべき便を計り阪先生の揮毫せられたるにて姿致瀟洒として婉麗に製本亦頗る美にして上品なり

女子高等師範學校長
華族女學校長 細川潤次郎先生序文
女子高等師範校助敎諭
共立女子職業學校講師 寒澤振作君著

家政の栞

全一册 洋装大判二百頁 正價金二十錢 郵税金六錢

本書は尤も多數なる中等社會の婦人を標準として平易に家政上の事柄を述べたるものにて其目次は總論に於て主婦の務めの貴重なる所以を論じ二章以下時間の儉約、物品の整頓、品物の時價、貯蓄、經費、手藝、物品の保存、雇人の待遇、室内の取締、家屋の構造、廢物利用等全篇十二章に分ち詳密に辨ぜし者なり且妻淑女一閲して家政上の智識を得られんとを

山田美妙齋君著

日本室内粧飾法

全一冊 正價金十五錢 郵税金六錢

品藻の優美天質の端麗は婦人の依て地步を知る所以かの室内粧飾法の如きは大に日本婦人の注意を要すべく又其纎緻なる意匠に適せり然れども從來粧飾に關する著書あらず從て婦人の意を用ふること切ならず今美妙齋君得意の美觀的精神を以て大に室内の粧飾を述べらる純爛の錦に眩し濃艶の色に傾くの婦人諸君一度本書を繙かば清淡雅美品物の位置着色の配合花卉の姿勢等皆瞭然として明なるべく秀麗純美の趣味と健康和樂の泉源融然として溢れん

須永金三郎君著

婦女手藝法

全一册 正價金十五錢 郵税金六錢

女子手藝の練習法を說きたる書世間其類に乏しからず然れども其多くは皆實用に適せざる飜譯物にして其完全なるに至つては世間多く其類を見ず此書は完全なる女子手藝の練習を與へん爲め實用を旨として編纂したるものにして全編を八に分ち和洋服裁縫。毛糸編物。レース。和洋料理。養蠶。紡績。織物。染物。料理。ハンカチーフ。縁縫。押繪。造花。縫取。切箝。紋切等の有益なる諸藝より茶の湯。香。投扇興。貝合。花骨牌。トランプ使用法等の諸遊藝に至るまで悉皆網羅し最後に至りて附錄として和洋の女禮式を載せたれば手藝の練習に志ある女子の爲には坐右に缺く可からざるの珍書なり

東京府高等女學校敎頭永江正直君著

女子敎育論

全壹册 正價金十五錢 郵税金六錢

敎育の論囂々たり而して女子敎育の天下の大問題となりしより久し既往二十餘年間に男子か敎育上受けたる變動は頗る著大なるものにして其度每に公私の資財を徒費し夥多の學生をして方向に迷はしめたるは世人の已に知る處なり然れとも之を女子か遭遇せし境遇の變動に比すれは尙且輕少の事たるに過ぎず壓制主義を排せんとして放逸に流れ西化主義を弊ありとしては固陋に陷り曰く儒敎主義曰く國粹主義一害を除きては一弊を生し一利に就かんとしては一益を失ふ取捨變更百十回にして而も女子敎育の方針は猶茫乎として望洋の嘆あるを免れざる敢て怪しむに足らざるなり其故何ぞや蓋し一經驗なく一責任なく竟に一個の定見なきものゝ泛言妄斷を信據するの弊害に歸せさるべからざるなり本書の如きは全然此類に同しからずして著者か東京府高等女學校の敎頭として十分の經營硏究實驗の餘に成れるものなるものなれは希くは此書に依て以て女子の敎育針路を定むることを得む。

賣捌所 東京神田表神保町六番地 女學雜誌社書店

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

小林光茂君編

眞理の叢

此書は左の順序を追ふて基督教の眞理を平易明瞭に解明せる所のものにして道を求むる者には最も良好なる餘師なり

紙員百五十八頁
定價金十五錢
郵税金四錢

目次

神
宗教の中心點
基督教の仁愛
實在的並理想的人生
希望
聖書
基督教の起原
耶蘇基督
聖靈
安心

原田助君
横井時雄君
原野彦太郎君
小澤孫太郎君
丹羽清太郎君
コーツ君
小林光茂君
本多庸一君
イビー君
外山孝平君

小林光茂君

きりすと教一斑

此書は俗論囂々たる現時に最も適切なる一篇の基督教辨證論なり其目次左の如し

第一　基督教の起原
第二　基督教の特性
第三　基督教の感化
第四　基督教現今の大勢
第五　結論

紙員百三十一頁
定價金十錢
郵税金貳錢

發行所　銀座三丁目八番地　メソヂスト出版舍
賣捌所　神田表神保町六番地　女學雜誌社書店

鈴木弘恭大人講述

第五版 百人一首講義

（附錄小倉てびき）

御高評を得たる百人一首注文いよ〳〵多く第四版品切に成りたれば茲に第五版を印行し、且つ「小倉てびき」と云ふ、極めて便利の見出を添ゆ、之によりて、百人一首それ〳〵の歌の句の在り處、意味、よみ手などを直ちに見出すことを得て至極重寶なり。

正價金廿八錢
郵税六錢

透谷蟬羽著

蓬萊曲

正價八錢
郵税二錢

之れ一度最暗黑に沈淪して更に一道の明火を得たりと信ずる人の沈痛悽惻なる聲を洩らしたる書なり。三年前に上梓して未だ殘本少々あり價を減じて讀者を待つ

發賣所　東京神田表神保町　女學雜誌社書店

大月隆著

文學の調和

定價二十五錢
東京各書店發賣

(一)文學の叢淵
(一)天地(二)美(三)文學の樂園(四)人生の狀態
(二)文學の目的
(一)文學の定義(二)詩文(三)散文(四)小說
(三)文學の發達
(一)日本文學(二)支那文學(三)歐洲文學
(四)文學の調停
(一)美(二)音樂(三)義人の血淚(四)宗教

發行所　東京神田區小川町五十三番地　文學同志會出版
賣捌所　東京神田區表神保町六番地　女學雜誌社書店

花の家胡蝶大人著

素人料理 **年中總菜の仕方**

實價金廿五錢　郵税金六錢

此『年中總菜の仕方』は、既に本紙三百五拾號に於て公評せられたる如く、文章も凡ならず、卷中の料理法極めて多くして、皆な實際に適し、最とも有益なるものと信ずれば、今回弊社に於て之を廣く取次販賣す、世の主婦たる人の必携すべき書なり、

近藤嘉三先生著

言語作法 **貴女の心得**

實價金拾四錢　郵税金四錢

本書の目次は、淑女の心得、夫の心得、化粧の要訣、談話の心得、訪問の心得、賓客接遇の心得、室内粧飾法、和歌の書方、香道の心得、茶道の心得、新式和洋挿花法、家庭衞生法、其他數件、一々圖譜を以て平易に説明せしものにして貴女の友たるを得るものなり、

巖本善治君著

女學叢書 **木村鐙子小傳**

實價金八錢　郵税金二錢

木村鐙子女史は我女子教育界の寒梅にして、女子が如何に堅信熱愛にして、若かも貞節賢德なる婦人たりし乎、請ふ此書を一讀其爲人を知り玉へ、

巖本善治君著

教育主義 **吾黨の女子教育**

實價金八錢　郵税金二錢

此書は通篇、拾五章に分ち、紙數二百〇七頁、記載する處

我國女子教育に關する編者が積年幾多の意見と、其主義を代言するものにして、殊に明治女學校の教育精神、期圖を知らんと欲する士女は本書に就き閲讀あらんことを、

巖本善治君講述

女子教育 **教育學講議**

實價金八錢　郵税金貳錢

此書は君が、明治女學校高等科女生に口述せられたる講義中を要望者に頒たん爲めに廉價を以て發行す、

竹越竹代女史著

賢婦傳記 **婦人立志篇**

實價金貳拾錢　郵税金貳錢

見よ婦人の地位の如何に制せられて、其達し得る程度を如何に限られて、而して其達し得る程度の制限なきを、此書は女子の讀物として甚だ有益なるものにして、頒く之を世間に紹介す

船越鼎太郎君著

産婦小供 **攝生法**

實價金十錢　郵税金二錢

此書は姙娠婦人適當なる攝生法を、平易、簡便に示したるものにして、産婦必讀の書なり、

横山雅男君著

實跡統計 **婚姻論**

實價金拾六錢　郵税金四錢

此書は理論を以て是非を極論したる者に非ずして、著者は統計集誌に於て知名の人なり、專ら古今東西の比例統計を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

採り以て、其國の寒暖生活文化の高低に因て、結婚に早晩あると、其實例照々乎として頗る我國男女の風習に付警嬌せしものなり、

博愛慈善 **看護婦美談** 久野久香君著

博愛なる婦人の多涙一生を捧げて看護婦となる、而して記述の事柄二百數十頁を以て成る、

實價金廿五錢　郵稅金六錢

撰正百首 **修正小倉百首** 蔦廼舍主人

我國婦女の毎春弄牌小倉式紙など弄じ之れを暗記成誦す、所謂戀歌なるもの殆ど其半に居る、其甚だしきものに至りては猥褻汙穢に過ぎたり、撰者は鳥保不爲在原業平小野小町一流の人物を深く慨して此撰を世に公にせられたるものなり、此撰は伊藤仁齋好詠の和歌にして、其集二百八十有餘集にして一の戀歌なし、仁齋是を天皇に奉りたるものなりと云ふ。

實價金四錢　郵稅金二錢

女子消息 **文のかきふり** 小野鶯堂先生書

女子の書牘は、おのづから其かきぶり存するなると、近來玆に注意する人々稀にして、眞字がちにこちたしき漢語をまじえ、おのこどもの書きなすものと、別ちなきやうに見ゆるそうたてき。そもそも文は、その書きふりうるはしければ、なんとなうゆかしく覺ゆるものなるを、女子にふさはしからぬ、とげとげしき文字の流行すなれば、いかてと思ひたちて、連綿墨つぎの法を考え『御候』字などのおき所をたゞし、熟語を除くほかに、多く假字文字を用ゐたり。云々編者誌す

上下二册　實價金三拾六錢　郵稅金六錢

高等 **女子文かきふり** 同

この書も亦女子か書翰のかきぶり、八拾壹題百四拾一章をつらねたる女子手跡の摸範とすべきものなり。

實價金三拾二錢　郵稅金六錢

再校 **かな習字帖** 同

此の書は、各女學校の習學科に撰定せられ、高等中學二年以上に相當する行、草躰の習字帖なり、自修の稽古本に適當のものなり。

三册　實價各金拾錢宛　郵稅各金二錢宛

藝妾内幕 **藝者と手掛** 炭谷小梅女史著

此書は炭谷小梅女史か、藝者と手掛の內幕を遺憾なく披露せられたるものにして、市下諸新聞は之を轉載或は細評せられたるものなり。

實價金三錢　郵稅金二錢

貞節龜鑑 **貞婦お石** 櫻井成明君著

貞婦お石が實に婦人の龜鑑たるべき貧困の中に舅姑の病氣を看護し、不良の夫が亡命して行方知られすなりたる后は、徇廻に田を鋤き畑を耕し、其苦節言語に堪ゆ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

農學士志賀重昂先生序　農學士内村達三郎先生編

新刊

教科及獨習用

新英語學

洋裝美本

定價六十五錢

郵稅六錢

條約改正將サニ迫ラントシ英語ノ口ニ益々必要ナルハ論ヲ待タザルナリ然ルニ之ヲ學バントスルニ好キ手引ナキハ我邦英語初學輩ノ永ク遺憾トスル所ナリ今本書ハ近頃泰西外國語練習ノ新法ニヨリ初メ一言一字モ知ラザル者ヲシテ易ヨリ難ニ進ミ煩ニ入ラシメ發音ヲ知リ文法ヲ知リ共ニ讀法作文法會話ヲ知ラシメントスルニアリ初メニ詳細ナル發音指針アリ次ニ文典アリ卷末ニハ更ニ簡易ナル普通ノ會話法アリ又タ英語譯文抄アリ之レニハ一々明細ナル註解ヲ施コシアリ而シテ最尾ニハ文典中和語英譯ニ關スル課題ノ答案ヲ附錄シアリ然レバ之ヲ初等或ハ中學ノ教科書トシテ最モ適用ス可ク獨習用トシテ晩學者或ハ僻地ニアリ好教師ヲ得サル者ヲシテ其路ヲ悟ルヲ得ン

大島正健先生口譯　司千代子編

新刊

繪入

印度物語

定價八錢

一右は印度の人ヲムスワミ、ラヂユー氏の集めたるを邦語に譯せしものなり其簡短にして寸鐵直入の諷刺伊蘇普物語にも勝りたる興味あり其表題は○飾玉と電光　虫と大陽　犬と犬　買梟と學校　狐と蟹　鴉と牛　猿と鏡　太皷と兵士○等三十餘種なり、製本は美麗、挿畫は巧妙、文體は雄致ありて面白きこと限りなし

再版

基督教文學第一集

基督教及佛教

定價廿錢

右は諸大家の論文にして基督教と佛教に關したるものを摘集して一書となしたるものなり、一卷を手にして基督教佛教の優劣眞僞を判すべし、請ふ江湖諸君續々御講讀あらんことを、第中の目錄下の如し、第一、佛迫の基礎(高橋五郎)第二佛道及基督教(非深梶之助)第三阿彌陀の説(ゴルドン)第四再論佛道(高橋五郎)第五我邦に於て神道佛道の慘狀如何を論ず(平岩愃保)第六論佛教道德(高橋五郎)第七世界佛教者の統計(小崎弘道)第八佛教を學ばるゝ人々に告ぐ(高橋五郎)第九愛を論ずる諸説を比較して耶佛二教の相違を明かにす(高橋五郎)第十佛教哲學一斑(高橋五郎)第十一亞細亞の光と世界の光(非深梶之助)第十二近時佛教論(植村正久)第十三耶佛優劣私考(高橋五郎)以上

松村介石先生著

五版

立志之礎

定價廿五錢

五版印刷將に出來せんとす以て其如何に世に歡迎されつゝあるかを知るに足らん

發兌　東京新橋出雲町　警醒社書店

賣捌　東京神田表神保町　女學雜誌社書店

聖書之友雜誌

第七十四號　二月廿日發兌

社説　殉教の精神を養ふべし　論説　傳道上の新計畫　竹越與三郎君　高想妙思　片々　雜錄　二百五十年前傳道の容易なりし所以○ゐ勢振興の兆○和歌一篇　摩西論（第廿三回）櫻井成明君譯　見童のため余が一生の過　聾太郎　日々のすゝめ　明治廿七年三月分日注釋

雜報　横濱聖書之友演説會○盲人聖書之友

聖書之友雜誌は平易なる文章を以て健全なる基督教を說く。其說く所空理に流れず。宗派に拘泥せず。信と望と愛とにあり。殊に聖書之友日課に就き適當なる解釋を施す又每號リーフレットを附して童蒙の敎訓を說く

每月一回の發兌にして一部郵稅共四錢五厘○六ヶ月廿五錢○一年四拾八錢なり

發賣所　東京京橋區彌左衛門町十五番地　聖書之友雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

皇后陛下 明宮殿下 御覽濟の書

再版

巖本善治妻譯

小公子

(リツトル。ロード。フォントルロイ)

子供のよみ本

(早稻田文學第四號)
坪内雄藏君批評

原書の精神は無邪氣なる小公子を主人に利已にのみ傾ける老貴族を副主公にして「無邪氣」の周圍に及ぼせる感化並に周圍の「無邪氣」に及ぼせる影響を寫さんと力めたるものゝ如し小説としての價値如何は譯書に就きて論ずべきにあらず只一言すべきは斯く純潔無垢の良小説を紹介したるは女學雜誌社平素の主義よりいふも誠に能く撰みたりと云べし譯文は誠に流暢平易なれども其中に譯者が深切なる苦心の跡見えたり就中長幼貴賤の言語を別たんとて又は文情の調和をはからんとて「キツト」「大した」もの「鼻が高い」「目がない」等の俗語を用ひたるが如きは殊に全力を洗きたりと見えていとめでたし行文の中に餘り多く「御」の字を用ひたるが少しく耳だてど咎むべき程にはあらず「人にいひ〳〵しました」「しつかり歩いてゐました」など言葉を重ねたるはおのづから優しき女敎師が幼童に敎ふる時の風に似たり何れも譯者の婦人たるを證してなか〳〵にゆかし」兎に角當今外國美文學輸入の必要あるに際し斯く原文の精神と外形とを寫し出さんと力めし翻譯の見はれしは文學のため賀すべき事なり。

正價金二拾八錢 郵稅金八錢

發行所 東京神田表神保町 女學雜誌社書店

女學雜誌定價表

冊數	定價前金	市外定價郵稅共
一冊	金六錢	金六錢五厘
十冊	金五十八錢	金六十三錢
廿六冊(半ヶ年分)	金一圓四十三錢	金一圓五十六錢
五十二冊(一ヶ年分)	金二圓六十錢	金二圓八十六錢

一本誌購讀者は代價郵稅共凡て前金御拂込之事前金御拂込無之御注文有之候共一切送附不仕候

一本誌代價郵稅共郵便小爲替にて拂渡局を必らす

一ツ橋郵便爲替取扱所へ宛御振込の事。

請取人は神田表神保町六番地女學雜誌社と御記入の事。郵便切手代用は一割増(五厘切手に限る)にて申受け候。

一本誌御注文の節は住所姓名を明瞭に記載し號數は何號より何冊分と詳細に御書添への事。

東京市神田區表神保町六番地

發賣所 女學雜誌社書店

明治廿六年四月廿五日内務省許可
明治廿七年三月二日印刷
明治廿七年三月三日發行

發行兼編輯者 東京市麹町區下六番町六番地 巖本善治
印刷者 仝 牛込區市谷加賀町一丁目廿三番地 根岸高光
發行所 東京北豐島郡王子村下十條八百五十一番地 女學雜誌社
印刷所 仝 牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場(電話十九番)

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY